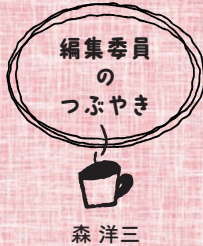


夢よ もっと ひろがれ



子どもが保護ねこのボランティアに熱中し、縁が重なって三匹が居着いたのはつい昨日のことのよう。世話をしていた我が子は家を出て、今では私たちがその役目を引き継いでいる。共に暮らして初めて知ったのは、ねこにも驚くほど確固たる性格があるという事。最古参のキジ白ハチワレは、わが物顔で家主のように振る舞い、私とは喧嘩以来、一切近寄らない。一方で黒猫の姉妹は天真爛漫そのもの。外出のために自動給餌器を三台導入したが、タイマーの僅かなズレを突いて順番に平らげるのは、実はこの妹たちの方だ。古株の威厳もどこへやら、文明の利器さえ手懐ける彼女たちの食欲には脱帽するしかない。結局、お出かけもままならないが、屋内飼育が主流の今、家の中で繰り広げられる彼らの「猫模様」は実に奥深い。いつかあの彼と仲直りし、私の手に頭を擦り付けてくれる日を夢見て、今日も三匹との賑やかな日常を紡いでいる。



無趣味でしたが、最近の趣味は「ねこ」。猫とのかかわりが健康の秘訣？最近はずっ気ない「はちわれ」との距離を縮める方向を研究中。

編集委員です わたしたちがつくっています



初瀬尾久美子 池田光巴 藤澤亮太 川瀬悟 山本昇平 山本友美 北川雄史 森洋三

感想とふちっこメンバー投稿募集！
みなさまのご意見やご感想、みんなの掲示板『ふちメン』への投稿お待ちしております。

夢よもっとひろがれ vol.217 めぶき
2026年 4月発行
発行・編集：社会福祉法人いぶき福祉会
〒502-0907 岐阜市島新町5番9号
TEL: 058-233-7445
メール: ibuki.m@ibuki-komado.com
法人サイト: <https://ibuki-komado.com>



Illustration by
Michiko Hara



● もくじ

- p3 はじめに
- p4-6 仲間のすがた
- p7 あいだをあむ：密山 要用
- p8-9 わたしと息子といぶきと
- p10-13 いぶきのものでづくりストーリー
いぶき「羊毛フェルト」の物語
- p14-15 情報掲示板
- p16 寄付御礼



紙面のフチ、みんなのスペース『ふちっこメンバーズ』は、読者の皆さまよりいただいた投稿を掲載しています。
★投稿は裏面のQRコードよりお待ちしております

● 作者の紹介

夢よ
もっと
ひろがれ

タイトル：白木祐さん



イラスト：はらみちこさん

店頭で値札を二度見し、画面の向こうの砲火に息をのみ、分断をあおる言葉に心が削られる。そんな日々に、慣れてたまるかと抗いながら暮らしています。新緑を心待ちに、ほっと自分を取り戻したくなったら、どうぞいぶきへお越しください。ここにはお互いを思いやる手ざわりがあります。仲間たちが背中を押してくれます。

いぶきファミリーは、1994年の法人認可を支えてくださった7000人の思いを受け継ぎ、ひろがりつづけてきました。会員のみなさんのお気持ちに応えたくて、会報ではつい「おかげさまで」「すごいでしょ」と前向きな報告を先にお届けしがちです。けれど同時に、まだ行き届かないことや、抱えたままの苦しさもあります。だからこそ、できることも、難しいことも分かち合いながら、いぶきをひらき、かわりしろを育て、ともに余白を埋めていく。そんな関係をこれからも大切にしたいと思います。引き続きこの物語の登場人物として一緒に歩んでください。どうぞよろしくお願いいたします。

法人本部 北川 雄史



仲間のすがた

竹中均さん
たけなか ひとし

西部事業部 渡邊 由果

竹中さんらしく、いつまでも



還暦を祝う会で、懐かしい写真をみんなでみました



無認可時代いぶき共同作業所にて



大好きなコーヒーを飲んでご機嫌

竹中均さんは、いぶきでは知らない人はいないと言っても過言ではないほど、超のつく有名人であり、みんなの話題の中心であり、みんなのヒーローであり、みんなから愛されている存在です。そんな竹中さんの素敵な姿をご紹介します。

誰をも笑顔にする「天性の魅力」

昔から、竹中さんは人をもてなしたいという気持ちが人一倍強い方でした。以前はよく、お客さんや新しい職員が来ると、自らアイスコーヒーを作って出してくれていました。ただ、お盆の上がコーヒーでびしゃびしゃになり、カップに指が入った状態です。それでも竹中さんの満面の笑みで「どうぞー、どうぞー」と勧められると、誰もが「ありがとう」と竹中さんの入れたコーヒーを飲み干したものでした。

また、事業所連の運動会でのエピソードも欠かせません。いぶきはリレーで毎年最下位が定位置。アンカーは決まって竹中さんでした。バトンを受け取った時にはコースを走るのは彼だけ。会場中の視線を一身に集め、両手を挙げてゴールテープを切ると、会場から割れんばかりの

拍手をもらっていました。本当にみんなを惹きつける天性の才能の持ち主です。時には、気に入らないことがあると職員に「クビ!クビや!」と怒ることもありましたが、それは竹中さんに職員として認められている証でもありました。

変化の中でも変わらない「竹中さんらしさ」

昨年、竹中さんは還暦を迎え、「ひまわり」に移って約2年が経ちました。言葉数が少なくなり、歩行も難しくなっています。しかしその分、自分の思いをより伝えようとしていて、言葉を選びながら、一生懸命に伝えようとしたり、「うーん」と考え込んだり、私たちにとっては、一つひとつのやり取りがとても大切に感じられます。時折見せるユーモラスな一面も健在です。



両手を握って思いを一心に伝えている様子



みんなのスペース
メンバースペース

「ねこくん/岐阜市」 息子たつでの希望で日帰り列車旅へ！大阪から岐阜まで普通列車の各駅停車……。「遠い目をする私の横で、息子は座席で飛び跳ねて喜んでいました。良い思い出ができました。」



車椅子を動かし倉さん(右)のところへご挨拶



注文いただいた商品のお届けに

あいだ を あ む

vol.2

医療法人かがやき
総合在宅医療クリニックみの
院長・プロデューサー 密山要



多様なつながりを紡ぎあう社会へ。
「あいだ」をしなやかに、
かるやかに「編む」人たち。
その実践を綴っていただきます。

「希望する在宅生活を安心して支援します」を理念に、岐南町、名古屋市、美濃市の3拠点で在宅医療を提供する医療法人かがやきの医師として、2024年から美濃市の訪問診療と地域ケアの拠点を運営しています。まちで一緒に冒険する医師、コミュニティドクターを全国に増やす活動もしています。

まちに「ベンチ」をつくる

岐阜県美濃市のまちなかにある「かがやきベンチ」は、在宅医療のクリニックでありながら、まちの中のケアをみつめて、つなげて、つくる拠点でもあります。

「ベンチ」には、年齢も立場も関係なく、誰もが横並びで座れる—そんな余白のある場所でありたいという願いを込めています。わたしが在宅医療の現場で日々感じるのは、ケアは専門職が提供するものはごく一部で、大部分はその人自身や家族、家やまちの中にあるモノや場所など、日常の中に埋め込まれているということです。訪問診療でお伺いしていたある方が、「もう一度、行きつけの喫茶店でモーニングが食べたい」と希望されました。肺の病気で外出を諦めていたのですが、ご家族とスタッフで計画を立て、一緒に出かけることができました。顔なじみの店主と言葉を交わし、いつもの席で、普段は少食なのにモーニングをほぼ完食されました。この時間が、その方にとって「自分らしい暮らし」を取り戻すきっかけになりました。ケアの力を発



ベンチづくりプロジェクトの風景

揮したのは、日々のルーティン、ご家族との関係性、行きつけの喫茶店の協力だと思えます。

地域に足りないケアをつくることにも取り組んでいます。ガレージでものづくりの得意な若者と木のベンチをつくるプロジェクトでは、患者さんから子ども、お年寄りまで集まり、立場を越えた交流が生まれています。毎月の「スープのじかん」では、医療・介護・福祉の人たちが職種を越えてスープを囲み、顔の見える関係を育てています。こうした「ケアの出来事をつくる人」を高校生や地域の若者とともに育てるスクールも続けています。

ケアは専門職だけが担うものではありません。人と人、モノ、場所のあいだに、すでにケアの種は宿っています。かがやきベンチはまちの人たちとともに、その種をみつけて、つなげて、足りないものはつくる「ケアを編みなおす」拠点として、「なんとかなるさ」と思える人が一人でも増えていくことを目指しています。



シェアオフィス WASITA MINO内
総合在宅医療クリニックみの
かがやきベンチ

ん、ありがとう」と手を合わせながらつぶやく姿もあり、ふとした瞬間にこれまでの歩みや大好きな人と過ごした大切なつながりが今も息づいています。

これからも、一緒に

日々のティータイムは、仲間たちそれぞれが好きな飲み物を選び、コーヒーや紅茶を飲みながら、ゆったりとした時間を過ごしています。何気ない時間の中で会話や、安心した表情が生まれる、かけがえないひとときです。独り言のようにふとこぼれる「お風呂」や「あったかいコーヒー」、「給料ほしい」といった言葉にも、その時々思いが込められているように感じます。そうした言葉を大切に受け取りながら、これからも、竹中さんらしく、安心して過ごしていけるような時間を一緒に重ねていけたらと思っています。



食べ終えた食器を頭に乗せて、こちらに「見てみて」と言わんばかりに満足げな表情を見せて、思わず周りも笑顔になります。竹中さんらしい、あたたかくてどこか愛らしい瞬間です。

つながりの中で過ごす 穏やかな時間

ひまわりの部屋では、仲間たちと穏やかな時間を過ごしています。周りの仲間たちも竹中さんの様子をよく見ていて、「また何か喋っているよ」と教えてくれたり、にこにこ見守っていたり、竹中さんが少し不機嫌そうな表情を見せると、心配そうに見つめたり、自然なつながりが生まれています。

コーヒーが好きな竹中さんは、ティータイムをととても楽しみにしています。コーヒーを飲み終えたあとには、「ごちそうさま」「ありがとう」と、伝えてくれます。その言葉を聞かされたとき、私の気持ちもやわらぎ、私も「ありがとう」という気持ちを大切にしたいと思います。

時には、「今日はおっさん(大好きなグループホームの世話人さん)おらんで」と寂しそうに話されたり、「お父さん、お母さ

みんなの
スペース
メンバース
バース



《も》関市《この春、娘が中学を卒業。卒業旅行はUSJへ。しかも中学の制服+ルーズソックスで行くらしく、前日に急ぎよ購入。帰宅後は新品ソックスにペットボトルを入れてポンポン回して伸ばすという謎の共同作業が始まりました。自分は完全未経験ですが全力参加流行って、こうやって受け継がれるんですね。

※ シリーズ ※

わたしと息子といぶきと

いぶきに通う仲間の親さんの手記。わが子の生い立ち、これまでのことを振り返って、エピソードや自身の想いを綴っていただきます。

馬淵 吉市（馬淵茂さん父）

茂は平成3年9月25日、馬淵家の3人目の子どもとして誕生しました。生まれたときは元気で、まさかその後に大きな心配を抱えることになるとは思っていませんでした。しかし1歳になる前、突然けいれんが起き、私たちは驚きと不安の中で救急車を呼び、岐北厚生病院へ搬送されました。手当てをしていただき、ひとまず落ち着いたものの、後日紹介された大学病院で検査入院をし、そこで「脳梁欠損症」と診断されました。



1歳誕生日

初めて聞く病名に、私たち夫婦は頭が真っ白になりました。先生から丁寧に説明を受け、理解しようと努めました。「自分の子に限って」という思いが強く、なかなか受け入れることができませんでした。処方された薬を飲み続けることで、幸いにもそ



おねえちゃんおにいちゃんと

の後30年以上けいれんが起きていないことは本当にありがたいことです。ただし薬の副作用で成長がゆっくりになると言われ、実際に今の茂の脳の発達は3~4歳ほどだと思えます。まっすぐ歩くこと、話すこと、物を掴むこと、走ること、泣くことなど、多くの行動を自ら進んでしようとはしません。それでも、親としては立って歩けるようになっただけでも大きな喜びです。茂は恵光学園での3年間の保育を経て、県立中濃特別支援学校の小学部・中学部・高等部に計12年間通うことができました。特に高等部の修学旅行では、飛行機に乗って沖縄へ行くという貴重な経験をさせていただきました。二泊三日の行程で首里城や美ら海水族館を訪れる予定でしたが、初日の途中で熱を出してしまい、

二日目は丸一日ホテルで過ごすことになり、美ら海水族館へ行けなかったことは少し残念でした。それでも、茂にとっては大きな挑戦であり、良い思い出になったと思います。



小学部卒業式

卒業後の進路を決める際には、いくつかの施設で実習をさせていただきました。パニックを起こしやすい茂に合う環境を探すのは簡単ではありませんでしたが、幸運なことに第二いぶきに入所することができました。家から近く、スタッフの皆さまも温かく、安心してお任せできる場所に巡り会えたことに感謝しています。一方で、同じ卒業生の中には遠方の施設にしか入所できない方もいると聞き、環境に恵まれたことを改めて感じています。

茂は今もゆっくりと成長を続けています。



高等部卒業式



成人式

先日スタッフの方から、帰り際にウグイスの声を聞いて「ピーチャン」と言ったこと、同室の子の名前を口にしていたことを教えていただきました。家では「お父さん」「お母さん」という声を聞いたことがなく、テレビに反応して大きな声を上げる程度なので、施設での様子を聞くと驚きと嬉しさが入り混じります。ただ、紙くずへの強い執着があり、皆さまにご迷惑をおかけしていることと思います。また人混みが苦手、スーパーや親戚の家など、慣れない場所には近づけません。これから先、私たちがいつまで茂を第二いぶきへ送っていくことができるかは分かりません。しかし、茂が少しでも楽しく、安心して生きていけるよう、家族で力を合わせて支えていきたいと思っています。



夏まつりで、魚釣りゲームに挑戦

みんなのスペースメンバーズ



《みつびり/岐阜市》石鐘山へ登山にでかけた。山小屋で外国の方に「写真とっていい?」と声をかけられる。ナンバかと思ったら私が着ていたTシャツ「No Mountain No Life」を指さし「Good!」と。あ、こつちね? 苦笑。満面の笑みでポーズを決めておきました。英語勉強しようかな?

みんなのスペースメンバーズ



《なつこちゃん/岐阜市》「最近、息子に一方的に怒ってしまいました。でもその後、息子はあんなに泣いて、自分が息子を責めたことに気づき、涙を流して謝りました。怒りすぎた大人になりたいです。」

「羊毛フェルト」の物語

ダイアログ：山口泰代・古田洋右・山本友美・岩佐裕子・森洋三

いぶきの羊毛フェルトは、同じ形の中にも少しずつ違いがあり、それぞれに表情があります。ねこ玉やブローチをはじめ、動物やキャラクターなどの多様な商品があり、いぶきのほとりや岐阜県美術館などでも販売されています。日常にそっと寄り添い、使う人の気持ちを和らげてくれる商品のストーリーを紐解きました。



始まりは「動き」から生まれた

いぶきの羊毛フェルト細工の仕事の歴史は、今から10年以上前まで遡ります。きっかけは、仲間の「手の動き」でした。マラカスをシャカシャカと振るのが大好きな仲間の、楽しそうな様子を見て「この振るという自然な動きを、何かの仕事に繋がられないだろうか」と考えたのです。

そこで試みたのが、振ることで羊毛を丸める「フェルトメーカー」でした。特別な訓練や技術を身につけるのではなく、仲間が日常の中で見せる何気ない、けれど生き生きとした動きが、そのまま「仕事」へと姿を変えた瞬間でした。



フェルトボールメーカーをふりふりする横山さん

仲間に合わせて仕事をつくる

いぶきの仕事づくりで大切にしているのは「仲間を仕事に合わせる」のではなく

「仲間に仕事を合わせる」ことです。森さんや増田さんや三宅さんは指先で静かに、けれども熱心に繊維をほぐし続けます。その地道な手仕事で、美しいフェルトを作るための大切な素材づくりになります。また、今井さんや横山さんは容器を持って、職員や周りの仲間と一緒に「いち、に……」と10まで数えながら振っています。10になったら一度止まり、また振る。みんなで作るリズムが、その人の仕事の形になっています。



やさしく丁寧にほぐしている三宅さん

さらに、机を叩く中島さんの力強い動きが、平たい形状のフェルトを固める工程を担っています。それぞれの得意なことが、一つひとつの工程に命を吹き込んでいます。作業の輪から少し離れて、じっと様子を

見ている仲間もいます。私たちは無理に声をかけることはしません。楽しそうな空気を感じて、その人がふと近づいてきた時が「やり時」です。やらされるのではなく、自然と関わりたくなる場をつくること。それが、いぶきのフェルト仕事の土台になっています。



羊毛フェルトの仕事風景

規格から自由へ、ブローチ誕生

ねこ玉（フェルトボールのストラップ）は、当初から現在に至るまで大切に作り続けている仕事です。21mmで真球に近いねこ玉がきれいに並んだ姿は、とても美しく、いぶきの象徴的な商品の一つです。一方で、制作の過程ではどうしても真球にならないものも生まれます。それらを「すべて不良品としてしまうのはもったいない」そんな思いが広がりました。



楽しくふりふりしています

「形が揃っていないでもいい、色が混ざっていてもいい。それが個性なのだから」という発想の転換がありました。2017年頃から、規格外となった玉を活かしたり、自由な感性で色を混ぜたりする「ブローチづくり」が始まりました。これが、個性をそのまま価値に変えていく転換点となりました。

試行錯誤と商品開発の積み重ね

もちろん、最初からすべてが順風満帆だったわけではありません。初期のブローチは裏の仕上げが甘く、商品会議でみんなの意見を聞きながらブラッシュアップを重ねました。私たちは休日を利用してクラフトマーケットへ足を運び、作家さんの作品を手にとって裏側の処理や価格帯を研究しま



《約り吉/岐阜市》先日妻が風邪をひいた時のこと。子どもと遊び、ご飯を作り、お風呂洗濯、etc 1日をバタバタと終え布団に入るとすぐ「次日はスカート？毎日泳ぐとこなし」に聞こえる妻に最大の感謝！当たり前ではなく自分ゴトとしての課題が見つかった濃い5日間でした。



《やす/岐阜市》この春から幼稚園に通い始める三歳児。お友だちと笑顔で通えるといいなあ。帰る後に「たなな報告してくれるかと、心配&楽しみます。

した。仲間たちが一生懸命作った素材を、いかに魅力的な「商品」としてお届けできるか。そのための試行錯誤は、今もなお続いています。

外に出て気づいた価値

毎年岐阜駅で開催されるクラフトフェアに出展したとき、私たちの心に残る出来事がありました。お客様が「軽くていいわね、これなら肩が凝らずに毎日つけられる」と喜んでくださったのです。



いろいろな色やかたち、アイテムも豊富です

さらに驚いたことに、翌年のイベントに、前年に購入されたブローチを胸につけて訪ねてくださるリピーターの方もいらっしゃいました。自分たちが楽しみながら作っているものが、誰かの日常を彩り、価値として認められる。その実感が、なかまたち、そして職員にとっても大きな自信へと変わっていきました。

関わり方も多様な「役割」になる

フェルトの現場には、作業だけではないさまざまな関わり方があります。松原さんは、みんなの様子を見に来て、じっ



どんな感じになっているかな、見に来てよ

と見守ってくれます。

松原さんがふらっと見に来てくれると、「今日はいい感じやな」と言ってくれているように感じます。その人なりの関わり方があり、存在そのものが場を支えています。そこに居てくれるだけで、自然と良い雰囲気生まれるのです。いぶきでは、作業をすることだけが仕事ではなく、場を共にする関わり方すべてが、かけがえのない役割なのです。

外への広がり、これからの夢

最近では、嬉しいことに繋がりも広がっています。岐阜県美術館のミュージアムショップでガチャガチャや、オディロン・ルドンの『蜘蛛』をイメージした「くもくん」をフェルトで製作する企画も実現しました。仲間が直接納品に伺い、スタッフの方に「ありがとう」と喜んでいただけた経験は、何物にも代えがたい励みになっています。

今後は、さらに多くの方に手に取っていただけるよう、ピンバッジなどの新商品も開発中です。また、制作工程を地域の

ボランティアさんにお手伝いいただくなど、フェルトを通じて地域とのコミュニティをさらに広げていきたいという夢も持っています。

羊毛一本一本が重なり合い、ゆっくりとひとつのまとまりになっていくように、仲



岐阜県美術館のショップスタッフのおふたりが来てくれました



岐阜県美術館のショップへ納品。「よろしくおねがいします」

間の個性と、支えてくださる皆さまの想いが重なって、いぶきの物語は紡がれていきます。これからも、手仕事の温かみとともに、仲間たちの輝きを届けていきます。どうぞ、いぶきの羊毛フェルト活動と一緒に楽しんでもらえたらうれしいです。



雑誌BRUTUSに「くもくん」が紹介されました

オディロン・ルドンの《蜘蛛》をモチーフにした「くもくんブローチ」が掲載されました。通いたくなるミュージアム、ミュージアムグッズ特集にて紹介いただきました。購入は、岐阜県美術館ナンヤローネSHOPにて。



2025年1月10日発売 雑誌「BRUTUS(ブルーラス)」



ちょっと不気味な絵が、かわいい手作りグッズに。
所蔵絵画オディロン・ルドンの《蜘蛛》は、岐阜県美術館
●岐阜/岐阜市
購入したような動物のつぼみが、ちょっと不気味で不思議な魅力がある絵画。それがフェルトのブローチになると、たちまちかわいくなる。福祉事業局で一つ一つ手作りされており、作り手によって微妙に顔立ちが違おう。お気に入りの子を選びたい。2,000円(いぶき福祉会0998-233-7445)。



《フロアテニールン各務原市》先日、後輩の結婚式に京都へ行ってきました。桜の名所高台寺の向かいに素敵な景色のなか幸せをいたたいてきました。京阪電車の特急に乗ってダブルテッカー(2階建て)で内装と作りがカッコよかったです！



《フタル各務原市》4月は進級社会人進学と人生において分岐点です。私の息子もそれぞれ人生の道歩んでいます。嬉しい気持ちの反面寂しい気持ちもあります。しかし頑張っていきたいと背中を押してあげたい今日この頃です。



01 地域のきずなと命の尊さを再確認

2026年3月6日、ぎふメディアコスモスにて「ぎふハッピー・ハッピープロジェクト活動報告会」と「寺澤大祐さん講演会」を開催しました。報告会では、寄付を通じて福祉を応援する「ありがとうの輪」が、5年間で24社ものパートナー企業へ広がったことを報告しました。柴橋岐寿市長からも「協働のまちづくり」への温かいエールをいただき、地域と共に歩む手応えを改めて感じる時間となりました。夜には、新生児医療の最前線で活躍される医師・寺澤大祐先生をお迎えしました。NICU（新生児集中治療室）で「いのち」を見つめ続ける先生の言葉は、障害のある仲間たちが自分らしく輝ける社会を目指す私たちの活動とも深く重なり、参加者の心に静かに染み入りました。地域との連携、そして一人ひとりの存在のかけがえのなさ。皆様に支えられ、大切なバトンを次へつなぐ決意を新たにしたい、実り豊かな一日となりました。



02 みんなで楽しむ時間「ハピラジ」

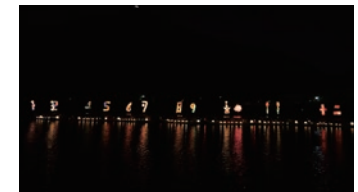
2025年10月から「ハッピーすまいるラジオ（ハピラジ）」を続けています。ラジオと言っても電波で放送するわけではなく、仲間と職員の会話を楽しむ時間になっています。月に一度の収録は仲間だけでなく職員もなれないマイクに緊張していましたが、回を重ねるごとにその場を楽しむ事ができるようになり、収録を楽しみにしてくれる仲間も増えました。数名の職員と仲間が集まり、普段なかなかできない『ゆっくり話をする時間』を設けています。声が入りやすくて大丈夫なんです。表情や仕草だけでも会話は成立します。何より、一緒に楽しむことを大切に、多くの仲間がやってみたいと思えるような活動にしていきたいと考えています。



03 長良川を照らす「こよみのよぶね」を制作

冬至の夜、巨大な数字の行灯が長良川を下る「こよみのよぶね」。今回はいぶきの仲間たちと、アユを食べる鵜を表現した「1月」の行灯を制作しました。マルシェなどで訪れる子どもたちとも一緒に作り、何年も参加してくれる子の手際よく針金を巻く姿に、歴史と手を取り合うものづくりの楽しさを感じました。当日は自分たちの行灯が水面を流れる幻想的な光景をみんなで見守り、一年を締めくくる大切なひとときを過ごしました。

みんなで作った「1月」の行燈→



04 「こども応援チケット」はじめました★

子どもたちの笑顔をつなぐ「こども応援チケット」はじまりました。子どもたちが健やかに、笑顔で過ごせる時間を作りたい。そんな思いから、月に一度おやつ無料提供を開始。はじめての「チケットデー」では、大勢の子どもたちが来てくれました。おいしかったー！ありがとう！帰る時に子どもたちが元気いっぱい伝えてくれました。そしてチケットを買ってくださった方へありがとうの気持ちを真剣に書いていました。子どもたちに「おいしいおやつ」と「たのしい時間」を、大人のみなさまには、ぜひチケットを買ってご支援をおねがいします。



▲チケットの購入



05 岐阜の小さな隣人まつり開催 CO・OP共済 地域ささえあい助成事業

2026年1月から3月にかけて、いぶき内の5つの事業所をまわって「岐阜の小さな隣人まつり」を開催しました。日光町の家では、日ごろから学校帰りに立ち寄ってくれる子どもたちと、にぎやかな雰囲気の中米粉のビザづくり。アツアツできたてを持ち寄りのお菓子と一緒に来場者にお配りしました。「どうぞ」「いつもありがとね」と言葉をかけあうやりとり、日頃のご近所付き合いのあたたかさや大切さを感じました。

